

派遣国	フィリピン	派遣都市	ヌエバ・ビスカヤ
出国年月日	2018年8月7日	帰国年月日	2018年8月21日
法政大学との共催団体名（受入団体名）	GLMi		
主な活動内容	GLMiが行っている事業の視察と体験。国際協力塾合宿。		

1. 活動内容

- 【8/7】9時半発の便で成田からマニラへ移動。到着後、8時間かけてヌエバ・ビスカヤへバスで移動。
- 【8/8】ARMLLEDの事務所にて、事業説明会。農機のメンテナンスと経理の実務体験。
- 【8/9】ARMLLEDの業務体験。
- 【8/10】VFIの事務所にて、事業説明会。
- 【8/11】VFIの職員と共に農民から野菜を包装作業。23時にホテルを出発し、夜行バスでマニラへ移動。
- 【8/12】8時に到着後、直ちに昨日包装した野菜を市場で販売。NPO法人・HALOHALOが運営しているフリースクールを訪問。貧困地域で育ち、複雑な背景を持った青少年が働くレストラン・ユニカセで夕食をとり、外部の参加者と合流し、ホテルへ移動。
- 【8/13】JICAに訪問。再びヌエバ・ビスカヤへ移動。
- 【8/14】早朝に到着。
- 【8/15】農場訪問。VFIの直営店見学。VFIのスタッフにインタビュー。
- 【8/16】農機体験、ARMLLEDスタッフにインタビュー。
- 【8/17】小学校訪問、IFARMの農家にインタビュー@パイタン村。
- 【8/18】農機体験、ARMLLEDの農民とオペレーターにインタビュー。
- 【8/19】終日プレゼンテーションの準備。
- 【8/20】ARMLLEDとVFIの職員、地元の大学生に向けてプレゼン発表。その後、お別れ会。
- 【8/21】帰国。

2. 特筆すべきエピソード

NPO法人ユニカセの代表である中村さんと出会い、価値観が大きく変化しました。中村さんはもともと国際協力に携わる職業を目指していませんでした。20代の頃は、家業の酒販店と共に親の借金（4億円）を背負い、経営を行いながら返済にいそむ日々を過ごしていたそうです。そして、この経験から「誰かのために働きたい。」という意思が芽生え、児童養護施設のボランティアを始めた後、NGOに就職し、国際協力の世界で働くことになったそうです。プログラムに参加する前は、大学卒業後そのまま大学院に進学しなければ、国際協力に携わる職業に就くことが出来ないと勝手に思い込んでいました。しかし、中村さんの話を聞き、国際協力に携わるための手段・ルートは1通りではないことを知りました。また、「自分次第で活躍する場所・事柄を変えられる。」と自身の無限にある可能性を再確認させられました。

3. 苦労したこと

インタビューの質問内容を限られた時間の中で的確に考えることが非常に難しかったです。現場が抱える問題やその原因を知るために、農民や現地スタッフの方々にインタビュー調査を行いました。質問内容を考えるにあたって、ある程度問題点とその原因を推測する必要があります。そのため調査を行う前に、問題点から導き出せる原因の推測の仕方についてのワークショップがありました。その時は仲間と一緒に意見を出し合ったため、様々な原因を考えることが出来ました。しかし、実際に1人で調査を行うと非常に難しく、「本当にこの質問は調査に結び付く答えを引き出せるのだろうか。」「もっと他に聞くべき質問があるはずだが、全く思いつかない。」と常に悩んでしまいました。

4. 身に付いたこと

プログラムを経て、様々な事柄について疑問を持ち、自ら問いただすことが出来るようになりました。大学の講義や講演会では常に受け身で、質疑応答の時には質問が全く思い浮かびませんでした。疑問があったとしても、手を挙げて質問することが恥ずかしく自粛していました。しかし、この2週間強制的に質問するよう促された環境に身を置いたことで、人に聞くという行為に抵抗を感じなくなりました。むしろ、自分の調査を進めるにあたり膨大な情報量を要したため、プログラムが終わる頃には主体的に率先して質問する態勢が身に付いていました。

5. 今回の経験を経て感じる「グローバル人材」像とは何か

今回の経験を経て「グローバル人材」像とは、必然的に醸し出されるオーラや人間性が優れている人材だと感じました。このプログラムには、法大生だけでなく外部からも2人参加していました。そのうちの1人の方は言葉が通じないにも関わらず、どの場所を訪れても地元住民から非常に人気がありました。「俺は特に何もしてないんやで！だけどな、何でか知らんけど、ドカーンと笑いが起こるんやわあ。」と本人は言っていますが、確かにその方は皆の兄貴的存在で、非常に親しみやすい雰囲気を持っている人でした。このことから語学力や教養も勿論大切ですが、言葉を介さなくても相手から信頼されるような人間力を日頃から養うことが大事だと気付かされました。

6. 後輩へのメッセージ

この冊子を手にとった瞬間から、あなたは新たなステージに踏み出しています。「今の私には実力も経験もないから、まだ参加すべきじゃない」などと勝手に自分を決めつけ、挑戦することを諦めないでください。私も自分に価値を見出せず、将来への不安を抱えていました。しかしプログラムを通して、「これをしている時、楽しいな！」「私にはこういうのが向いているのかもしれない。」と自分の強みや興味を知ることが出来ました。そして、今はその強みを伸ばすためにまた新しい事に挑戦し、以前の生活と比べ充実感が増しました。今の生活があるのは、「このプログラムに参加したい。」と思うだけに留まらず、実際に行動に移したからです。だから、失敗を恐れずにとりあえず行動に移してみてください！当たって砕けても、またそこでの学びが次への経験に活かされますから！

7. 写真



オーガニック農薬を製造中



オーガニック野菜のパッキング



貧困住民にインタビュー@マニラ



JICA 訪問@マニラ